

## 過去 10 年間の神奈川県における動物由来感染症の検査について

(第 25 回地研全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会 発表演題)

神奈川県衛生研究所

○古川一郎、稲田貴嗣、相川勝弘、渡辺祐子、高橋智恵子、丹羽加代子

### 【はじめに】

神奈川県では、平成 12 年に動物由来感染症対策検討会を設置し身近な動物が感染源となる動物由来感染症の予防に重点を置いた事前対応型の感染症対策を進めている。本検討会では動物由来感染症の病原体や抗体保有状況等の調査およびこれらに関する情報提供を行っている。調査対象とする感染症および動物は年度ごとに決定され、過去 10 年間ではこれまでに延べ 14 の感染症について調査を行った。当所ではオウム病、ジアルジア症、コリネバクテリウム・ウルセランス（以下、ウルセランス）感染症、カプノサイトファーガ感染症に関する検査業務を担当しており、これらを含めた感染症について過去 10 年間に行った調査結果について報告する。

### 【材料および方法】

オウム病は小学校あるいは動物展示施設で飼育されている鳥類の糞便（21～56 検体／年）を検体とし、オウム病クラミジアの MOMP 遺伝子および 23S rRNA 遺伝子の検出を試みた。ジアルジア症は動物保護センターに搬入されたイヌの糞便（60～94 検体／年）を検体とし、蛍光抗体を用いた鏡検法によるジアルジアのシストの検出を試みた。ウルセランスおよびカプノサイトファーガ感染症については、動物保護センターに搬入あるいは動物病院に来院したイヌおよびネコの口腔内あるいは咽頭ぬぐい液（74～100 検体／年）を検体とし、ウルセランスは菌分離およびジフテリア毒素遺伝子の検出、カプノサイトファーガは *Capnocytophaga canimorsus* および *C. cynodegmi* の 2 菌種についてそれぞれ菌種特異的な 16S rRNA 遺伝子の検出を試みた。

### 【結果および考察】

オウム病については平成 14～23 年で合計 418 検体を検査し、15 検体（3.6%）が陽性であったが、平成 18 年度以降はすべて陰性であった。ジアルジアについては平成 20～23 年度で合計 309 検体を検査し、5 検体（1.6%）でジアルジアのシストが検出された。陽性であった 5 頭のイヌのうち 4 頭は 5 ヶ月令以下の幼犬、1 頭は 2 才の成犬であった。カプノサイトファーガ感染症については平成 22 年度から調査を始め、*C. canimorsus* はイヌ 130 検体中 46 検体（35.4%）、ネコは 44 検体中 3 検体（6.8%）で検出され、*C. cynodegmi* はイヌ 59 検体（45.4%）、ネコ 13 検体（29.5%）でそれぞれ検出された。ウルセランス感染症については平成 22 年度から調査を実施しているが、陽性検体は確認されなかった。

本県動物由来感染症対策検討会では、当所で実施した上記の検査の他に、猫ひっかき病、トキソプラズマ症、回虫症、鉤虫症等について調査を実施している。過去 10 年間の調査結

果から得られた陽性率は、猫ひっかき病は 12.4%、トキソプラズマ症は 5.4%、回虫症は 28.1% 等となっている。現在、これらの結果について検体の由来、地域差、検査方法等を考慮しながら、県民への情報提供および啓発について検討している。動物由来感染症は、脊椎動物から感染するか脊椎動物との間で感染が起こる感染症であり様々な感染症が含まれるが、感染症予防および健全な動物との関係構築に向けて今後も正確な病原体保有状況の把握に努めたいと考える。

なお、本研究の一部は、厚生労働科学研究「ワンヘルス理念に基づく動物由来感染症制御に関する研究」により実施した。

## 謝辞

神奈川県動物由来感染症対策検討会において、ご指導していただいた日本大学丸山教授、荒島先生、麻布大学加藤准教授、神奈川県獣医師会、医師会の先生方、調査の実施にご協力いただいた動物保護センターならびに食品衛生課の方々、さらに、コリネバクテリウムに関する研究においてご指導ご協力いただきました国立感染症研究所山本先生に深謝します。

表) 過去10年間に神奈川県で実施した動物由来感染症の病原体調査結果

感染症名	対象動物(検査材料)		H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	合計	陽性率	
オウム病	鳥類(糞便)	検体数	56	48	50	55	33	48	54	21	30	23	418	3.6%	
		陽性数	7	2	5	1	0	0	0	0	0	0	15		
ジアルジア症	犬(糞便)	検体数							94	86	60	69	309	1.3%	
		陽性数							4	0	0	0	4		
コリネバクテリウム・ウルセランス感染症	犬・猫(口腔内スワブ)	検体数									74	100	174	0.0%	
		陽性数									0	0	0		
カブノサイトファーガ感染症 ( <i>C. canimorsus</i> )	犬(口腔内スワブ)	検体数									55	75	130	35.4%	
	陽性数										25	21	46		
	猫(口腔内スワブ)	検体数									19	25	44	6.8%	
	陽性数										1	2	3		
カブノサイトファーガ感染症 ( <i>C. cynodegmi</i> )	犬(口腔内スワブ)	検体数									55	75	130	45.4%	
	陽性数										32	27	59		
	猫(口腔内スワブ)	検体数									19	25	44	29.5%	
	陽性数										9	4	13		
猫ひっかき病	猫(血清)	検体数	20	20	20	20	20	23	22	20	75	50	290	12.4%	
		陽性数	8	1	3	7	3	3	2	0	7	2	36		
トキソプラズマ症	猫(血清)	検体数	20	20	20	20	19	23	22	20	75	50	289	5.4%	
		陽性数	1	2	3	2	0	0	1	0	7	0	16		
回虫症	幼犬・幼猫(糞便)	検体数	42	50	50	38	111	135	74	83	105	64	752	28.1%	
		陽性数	11	14	16	22	55	34	13	20	5	21	211		
鉤虫症	成犬(糞便)	検体数							20	31	30	31	59	171	6.4%
		陽性数							2	2	3	2	2	11	